

# 1 次元静電 PIC コードについて

東京工業大学 科学技術創成研究院 長谷川 純\*

2019/5/31

## 1 基礎方程式

電磁場中の荷電粒子の運動方程式は

$$m_j \frac{d\mathbf{v}_j}{dt} = q_j [\mathbf{E}(\mathbf{x}_j) + \mathbf{v}_j \times \mathbf{B}(\mathbf{x}_j)] \quad (1.1)$$

$$\frac{d\mathbf{x}_j}{dt} = \mathbf{v}_j \quad (1.2)$$

である。電磁場の時間発展は以下の Maxwell 方程式で記述される。

$$\nabla \times \mathbf{E} = -\frac{\partial \mathbf{B}}{\partial t} \quad (1.3)$$

$$\nabla \times \mathbf{B} = \mu_0 \mathbf{j} + \epsilon_0 \mu_0 \frac{\partial \mathbf{E}}{\partial t} \quad (1.4)$$

$$\nabla \cdot \mathbf{E} = -\frac{\rho}{\epsilon_0} \quad (1.5)$$

$$\nabla \cdot \mathbf{B} = 0 \quad (1.6)$$

数値計算をするにあたり、基本物理量の長さ、時間、電荷、質量に対して以下のような規格化を行う。

$$\hat{\mathbf{x}} = \frac{\mathbf{x}}{c/\omega_{pe}}, \quad \hat{t} = \frac{t}{1/\omega_{pe}}, \quad \hat{q}_j = \frac{q_j}{e}, \quad \hat{m}_j = \frac{m_j}{m_e}.$$

ここで、 $c, e, m_e$  はそれぞれ、光速、素電荷、電子の質量である。 $\omega_{pe}$  は電子プラズマ周波数であり、 $\omega_{pe} = \sqrt{n_e e^2 / m_e \epsilon_0}$  で定義される ( $n_e$  は電子密度)。基本量の組み合わせとして、速度、周波数、電磁場は無次元量として以下のように表される。

$$\hat{\mathbf{v}} = \frac{\mathbf{v}}{c}, \quad \hat{\omega} = \frac{\omega}{\omega_{pe}}, \quad \hat{\mathbf{E}} = \frac{e\mathbf{E}}{m_e c \omega_{pe}}, \quad \hat{\mathbf{B}} = \frac{e\mathbf{B}}{m_e \omega_{pe}}, \quad \hat{\phi} = \frac{e\phi}{m_e c^2}$$

これらの規格化された無次元量を用いて、運動方程式 (1.1)–(1.2) は次のように規格化される。

$$\hat{m}_j \frac{d\hat{\mathbf{v}}_j}{d\hat{t}} = \hat{q}_j [\hat{\mathbf{E}}(\hat{\mathbf{x}}_j) + \hat{\mathbf{v}}_j \times \hat{\mathbf{B}}(\hat{\mathbf{x}}_j)] \quad (1.7)$$

$$\frac{d\hat{\mathbf{x}}_j}{d\hat{t}} = \hat{\mathbf{v}}_j \quad (1.8)$$

---

\* hasegawa.j.aa@m.titech.ac.jp

一方, 規格化された Maxwell 方程式は,

$$\hat{\nabla} \times \hat{\mathbf{E}} = -\frac{\partial \hat{\mathbf{B}}}{\partial \hat{t}} \quad (1.9)$$

$$\hat{\nabla} \times \hat{\mathbf{B}} = \frac{\hat{\mathbf{j}}}{n_0} + \frac{\partial \hat{\mathbf{E}}}{\partial \hat{t}} \quad (1.10)$$

$$\hat{\nabla} \cdot \hat{\mathbf{E}} = -\frac{\hat{\rho}}{n_0} \quad (1.11)$$

$$\hat{\nabla} \cdot \hat{\mathbf{B}} = 0 \quad (1.12)$$

となる. ここで, 電流密度と電荷密度はそれぞれ,

$$\hat{\mathbf{j}} = \frac{\mathbf{j}}{\tilde{n}ec}, \quad \hat{\rho} = \frac{\rho}{\tilde{n}e}$$

と規格化されている. ここで,  $\tilde{n}$  は密度の規格化定数であり, 計算機で取り扱う粒子の総数に応じて決める値である. このとき計算機内の超粒子 1 個は,  $\tilde{N} = \tilde{n}\tilde{x} = \tilde{n}c/\omega_{pe}$  個の実粒子を代表することになる. 規格化された Maxwell 方程式中の  $n_0$  は超粒子の密度であり, 電子密度と  $n_0 = n_e/\tilde{n}$  の関係にある.

1 次元 2 速度の静電 PIC コードでは, 空間は  $x$  方向のみであるが, 速度は  $x$  および  $y$  方向を考える. これは  $z$  方向に印加された外部磁場  $\mathbf{B} = (0, 0, B_z)$  中での粒子の Larmour 運動を計算するためである. 静電モデルでは外部磁場は一様かつ定常なので, Maxwell 方程式の  $\mathbf{B}$  の空間微分および時間微分の項は全て 0 となる. したがって, Poisson 方程式のみを考えればよく, 基礎方程式は大幅に簡略化され以下ようになる.

$$\hat{m}_j \frac{d\hat{v}_{x,j}}{d\hat{t}} = \hat{q}_j [\hat{E}_x(\hat{x}_j) + \hat{v}_{y,j} \hat{B}_z] \quad (1.13)$$

$$\hat{m}_j \frac{d\hat{v}_{y,j}}{d\hat{t}} = \hat{q}_j [\hat{v}_{x,j} \hat{B}_z] \quad (1.14)$$

$$\frac{d\hat{x}_j}{d\hat{t}} = \hat{v}_{x,j} \quad (1.15)$$

$$\frac{d^2 \hat{\phi}}{d\hat{x}^2} = -\frac{\hat{\rho}}{n_0} \quad (1.16)$$